

## 一般社団法人 日本助産学会ニュースレター



### 第33回日本助産学会学術集会のお知らせ

第33回日本助産学会学術集会 会長 谷口初美  
(九州大学大学院医学研究院保健学部門 教授  
ICM West Pacific 担当理事)

この度、第33回日本助産学会学術集会を2019年(平成31年)3月2日(土)・3日(日)に、福岡市の福岡国際会議場におきまして、開催させて頂く事になりました。

メインテーマは「世界へ飛躍する日本の助産～いのちの担い手、愛と知と技～」です。

国際助産師連盟(ICM)は、国連ミレニアム開発目標(MDGs)において、世界の母子保健の目標達成のために助産師の存在とその意義を全世界にアピールし、世界中の助産師姉妹の活躍により、その成果は高く評価されました。

この活動にご尽力されましたICM前会長Ms. Frances Day-Stirkをお招きし、助産師の存在とその意義を熱く語っていただくことを予定しております。特に、日本の助産は、助産モデルとそのきめ細かな助産ケアにより世界に認められ、世界中から必要とされています。

今回の学術集会では、メインテーマに3つの支柱を掲げ、講演とシンポジウムで展開します。

I. 日本と世界のかけ橋：日本の助産モデル、世界に発信する日本の助産として、

- 特別講演：  
Ms. Frances Day-Stirk (ICM前会長)
- 教育講演①「日本の助産モデル」  
山本詩子先生(日本助産師会会長)
- シンポジウム①「世界へ発信する日本の助産」

II. こころのケア：周産期のメンタルヘルス、現代社会のIT化が及ぼす母子関係、児童虐待と子どものこころとして、

- 教育講演②「助産学の新たな風と精神保健への役割」  
吉田敬子先生  
(メンタルヘルスアイリス院長)
- シンポジウム②  
「周産期のメンタルヘルスの取り組み」
- 市民公開講座①  
「スマホに子守りはさせないで！～赤ちゃんが健やかに育つために～」  
佐藤和夫先生(九州医療センター小児科医)
- 市民公開講座②  
「子どものこころの発達：児童虐待と傷ついでいく脳」  
友田明美先生(福井大学)

III. 助産師の自律：MEによる助産診断の質の向上、先駆的助産師教育として、

- 教育講演③  
「産科診療における超音波の役割」  
吉里俊幸先生(久留米大学)
- 教育講演④  
「助産師教育におけるシミュレーション教育の可能性」  
阿部幸恵先生(東京医大)
- シンポジウム③  
「自律した助産師の育成」全国助産師教育協議会と共催企画

その他、交流集会、ワークショップ、CLOCMiP 認証研修を企画しています。

また、新企画として、英語による一般演題(口演・ポスター)、そしてICM前会長Ms. Francesとの交流の場を設けます。参加者の皆様が国内のみならず海外に視野を広げ、日本

の助産の必要性、助産師としての価値観が更に向上するような新企画を熟考し、学術集会在楽しい交流の場・アピールの場となるよう努力する所存です。

福岡は、陸・空共に交通の便が最高に良く、躍動感あふれる大都市です。そして博多は、明太子・ラーメン・もつ鍋に代表されるグルメの街でもあります。会場の福岡国際会議場は、博多湾を目の前にした風光明媚な場所に位置しています。学術集会での学びとともにグルメ・ショッピング、観光では日本一のソフトバンクホークスの本拠地である福岡ドーム、少し足を延ばして大宰府天満宮、九州国

立博物館やこの時季ならではの華やかな柳川のさげもん雛祭めぐりなど、福岡を存分に楽しんでいただけるものと確信しております。

**演題抄録締め切りが9月26日(水)と迫っています。**

多くの助産師姉妹が日ごろの研究や業務の成果を発表し、情報の共有からまた新たな発展へと結ばれますことを期待します。

本学会が、みのり多き素晴らしい学術集会となりますよう、皆様のお越しを企画実行委員一同心よりお待ち申し上げます。



# 第33回 日本助産学会学術集会

Japan Academy of Midwifery in FUKUOKA 2019

## 乳腺炎重症化予防ケア・指導料の概要

日本助産学会助産政策委員会 井村真澄

平成30年3月5日付けで厚生労働省から発出された乳腺炎重症化予防ケア・指導料に関する「告示」にもとづく「留意事項通知」およびその後に出され「疑義解釈」について概要をお知らせいたします。

### I. 乳腺炎重症化予防ケア・指導料に関する告示と留意事項通知

#### 1. 乳腺炎重症化予防ケア・指導料の内容及範囲

1) 乳腺炎重症化予防ケア・指導料とは、入院中以外の乳腺炎の患者であって、乳腺炎が原因となり母乳育児に困難がある患者に対して、医師がケア及び指導の必要性があると認めた場合で、乳腺炎の重症化及び再発予防に係る指導並びに乳房に係る疾患を有する患者の診療について経験を有する医師又は乳腺炎及び母乳育児に関するケア・指導に係る経験を有する助産師が、当該患者に対して乳房のマッ

サージや搾乳等の乳腺炎に係るケア、授乳や生活に関する指導、心理的支援等の乳腺炎の早期回復、重症化及び再発予防に向けた包括的なケア及び指導を行った場合に、分娩1回につき4回に限り算定する。

2) 当該ケア及び指導を実施する医師又は助産師は、包括的なケア及び指導に関する計画を作成し計画に基づき実施するとともに、実施した内容を診療録等に記載する。

【診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について(保医発0305第1号)】

#### 2. 「乳腺炎重症化予防ケア・指導料」の算定方法

分娩1回につき4回に限り算定する。

イ 初回 500点

ロ 2回目から4回目まで 150点

【診療報酬の算定方法(厚生労働省告示第43号 改正)】

#### 3. 施設基準

- 1) 乳腺炎重症化予防ケア・指導料に関する施設基準
  - (1) 当該保険医療機関内に、乳腺炎の重症化及び再発予防の指導並びに乳房に係る疾患の診療の経験を有する医師が配置されていること。
  - (2) 当該保険医療機関内に、乳腺炎の重症化及び再発予防並びに母乳育児に係るケア及び指導に従事した経験を5年以上有し、助産に関する専門の知識や技術を有することについて医療関係団体等から認証された専任の助産師が、1名以上配置されていること。
- 2) 届出に関する事項
  - (1) 乳腺炎重症化予防ケア・指導料の施設基準に係る届出は、別添2の様式5の9を用いること。
  - (2) 1の(2)に掲げる助産師についての医療関係団体等からの認証が確認できる文書を添付すること。

**【特掲診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取扱いについて（保医発 0305 第3号）】**

## II. 疑義解釈 (Q&A)

1. (問) 乳腺炎重症化予防ケア・指導料の施設基準で求める「助産に関する専門の知識や技術を有することについて医療関係団体等から認証された専任の助産師」とは、どのような者か。  
(答) 現時点では、一般財団法人日本助産評価機構により「アドバンス助産師」の認証を受けた助産師である。

**【疑義解釈資料の送付について（その1）（平成30年3月30日保険局医療課事務連絡）】**

2. (問) 「乳腺炎の重症化及び再発予防に係る指導並びに乳房に係る疾患を有する患者の診療について経験を有する医師又は乳腺炎及び母乳育児に関するケア・指導に係る経験を有する助産師」が実施した場合に算定するとあるが、この医師及び助産師は、施設基準で配置が求められている医師及び助産師を指すと考えてよいか。

(答) 施設基準で規定する医師又は助産師が実施した場合に算定できる。

**【疑義解釈資料の送付について（その3）（平成30年4月25日保険局医療課事務連絡）】**

(社) 日本助産学会等では活用して乳腺炎重症化予防ケア・指導料に関する、e-ラーニングを作成し、全国的な普及活動を行っております。学会ホームページからe-ラーニングサイトにアクセスできます。

また、このたび「乳腺炎重症化予防ケア・指導経過記録用紙」を作成し、その用紙の中に新たに作成した「重症度評価」を記載しましたので、ご活用頂けると幸いです。共通の評価項目を用いてデータを集積し、今後の診療報酬改定につなげたいと考えております。

母子健康と生活の質を高めるために、助産師が連携し力を合わせてまいりましょう。どうぞよろしくお願い申し上げます。

尚、診療報酬に関する質問などは、保険医療機関から地方厚生局へお尋ねください。

2018年12月9日(日)助産政策ゼミ～助産政策に必要な助産ケアのエビデンスご案内  
助産政策委員会

助産ケアが診療報酬で評価されるためには、どのようなエビデンスの蓄積が必要なのか、助産ケアの評価と診療報酬について、基礎解説及び具体的な取り組みを通して学びます。ぜひ、ご参加ください。

テーマ「院内助産・助産師外来ガイドライン2018について」

講師：後藤 友美 氏  
(厚生労働省医政局看護課 課長補佐)

日時：12月9日(日)13:00～15:00

場所：日本赤十字看護大学

.....

## 2018年度 助産政策ゼミ

主催：一般社団法人 日本助産学会 助産政策委員会  
助産政策に必要な助産ケアのエビデンス

助産ケアが診療報酬で評価されるためには、どのようなエビデンスの蓄積が必要なのか、助産ケアの評価と診療報酬について、基礎解説及び具体的な取り組みを通して学びます。ぜひ、ご参加ください。

	日時	内容
第1回 (済)	4/22(日) 10:30～13:00	データで示す産科混合病棟 講師：齋藤いずみ氏(神戸大学)  乳腺炎重症化予防ケア・指導料：助産学会において取り組むべき政策についての検討
第2回 (済)	9/23(日) 13:00～15:00	妊娠糖尿病と診療報酬について 講師：安日一郎氏 (国立病院機構 長崎医療センター産婦人科)
第3回	12/9(日) 13:00～15:00	院内助産・助産師外来ガイドライン2018について 講師：後藤 友美 氏 (厚生労働省医政局看護課 課長補佐)

会場

日本赤十字看護大学  
東京都渋谷区広尾4-1-3(日比谷線広尾駅徒歩15分)

参加費  
1回

会員：1,000円、非会員：2,000円  
学生・院生：無料

●お問い合わせ・申し込み●

参加希望の方は、お名前・ご所属・参加希望日を下記のアドレスまでお知らせください。なお、参加費は当日ご持参ください。

片岡弥恵子(聖路加国際大学) E-mail: kataokakaken@slcn.ac.jp

**紹介文献：**

Sandall, J., Soltani, H., Gates, S., Shennan, A. & Devane, D. (2016), "Midwife-led continuity models versus other models of care for childbearing women", *The Cochrane database of systematic reviews*, vol. 4, pp. CD004667

翻訳タイトル：妊娠、出産、早期育児中の女性のケアにおける助産師主導の継続モデルと他のモデルの比較

2016年にSandall他により発表された上記コクランシステマティックレビューは、英国・アイルランド・カナダ・オーストラリアの合計 17,674 名のハイリスクではない女性を対象とした 15 のランダム化比較試験の結果を統合したものであり、助産師主導の継続ケアの有効性が明らかとなっています。

助産師主導のケアとは「助産師が主なケアを担う専門職として、妊婦健診の初診の予約から産褥期に至るまで、女性のためにケア計画を立案し、組織づくりを行い、実際にケアを提供すると定義されており(RCOG 2001)、その根底には妊娠・出産は自然なライフイベントであり必要最小限の医療介入で出産できるという女性達の正常性や自然力を哲学としています。

この助産師主導の継続ケアは、日本では助産所、院内助産・助産師外来などに当てはめることができると思います。日本の周産期医療における助産施設の重要性や、分娩を取り扱う助産師が母子とその家族にとって社会の中でどのように働くことが求められているかを考える上でも要となる文献の一つであり、ぜひ皆様に周知していただければと思っております。

**【レビューにより明らかになったこと】**

助産師主導の継続ケアを受けた女性は、医師主導のモデルなど他のケアモデルを受けた女性と比較して安全性に問題は無く、医療介

入が少ない傾向にあり、費用対効果・女性の満足度においてもポジティブな結果が得られています。さらには、プライマリーアウトカムとして、37週未満の早産が少ないこと、24週未満・24週以降の死産と早期新生児死亡を合計した数を減らす傾向があることが明らかとなっています。

**【助産師主導の継続ケアのエビデンスに関する世界の動向】**

本レビューは、Hattem 他(2008)のレビュー(英文タイトル:Midwife-led versus other models of care for childbearing women)の改定版になりますが、助産師主導の“継続性”がより強調されています。“継続性”の詳細な定義は該当文献をご参照ください。

今回のレビューで明らかとなった児に対するポジティブなアウトカムと、助産師主導のケアの因果関係(なぜ助産師主導のケアは児のアウトカムを向上させるのか?)は明らかとなっておらず今後の課題とされていますが、このエビデンスは多くの国にインパクトを与え、助産師が主導するケアモデルの構築・再構築に加え、助産実践や助産教育にも大きく影響を与えています。また2016年には、世界保健機構(WHO, 2016)より、妊娠中の助産師主導の継続ケアに関する勧告が発表され、助産師によるサービス提供体制が機能している環境においては、1人の顔見知りの助産師、もしくは少人数の顔見知りの助産師のグループで妊娠・分娩・産褥を継続的にサポートすることが推奨されています。

**【日本における助産ケアモデルに関するエビデンスの動向】**

Sandall 他(2016)のシステマティックレビューは、英国・カナダ・オーストラリア・アイルランドのデータが中心となっていますが、日本でも Iida 他(2014)により同様に、合併症のリスクの低い女性に対する助産師主導のケアモデルの安全性と有効性が発表されています。そして上記紹介文献と共に産婦人科診療ガイドライン・産科編 2017 の院内助産/助産

師外来に関するサポート文献として使用されています。これらのレビューや研究には、妊娠・健康に関する深刻な合併症を持つハイリスクの女性に関するアウトカムが含まれていないため、臨床への適応には注意が必要ではありますが、ぜひ今後の臨床現場の助産ケアの発展とエビデンスの蓄積のためにご活用いただければと思います。

#### 【その他参考文献】

Hatem, M., Sandall, J., Devane, D., Soltani, H. & Gates, S. (2008), "Midwife-led versus other models of care for childbearing women", The Cochrane database of systematic reviews, , no. 4, pp. CD004667.

Iida, M., Horiuchi, S. & Nagamori, K. (2014), "A comparison of midwife-led care versus obstetrician-led care for low-risk women in Japan", Women and Birth, vol. 27, no. 3, pp. 202-207.

World Health Organization (2016), WHO recommendation on midwife-led continuity of care during pregnancy, <https://extranet.who.int/rhl/topics/improving-health-system-performance/implementation-strategies/who-recommendation-midwife-led-continuity-care-during-pregnancy>

### ICM 募金の御礼と継続支援のお願い

一般社団法人日本助産学会事務局

日頃から、皆様方の暖かいご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。

ICM 支援のための募金を常時受付けております。引き続きのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

#### ☆ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)☆

発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。

一口 2,000円

振替口座番号:00190-8-710931

加入者名:日本助産学会国際基金

#### ☆ ICMセーフマザーフッド基金 ☆

世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における助産知識の発展を支援する募金です。

一口 1,000円

振替口座番号:00240-8-6818

加入者名:日本助産学会ICMセーフマザーフッド基金

### 事務局からのお知らせ

一般社団法人日本助産学会事務局

#### 今年度(平成30年度)会費(10,000円)納入のお願い

本学会は皆様の会費をもとに運営しております。円滑な事業推進のため、お早目の会費納入をよろしくお願いいたします。

会費納入・会員番号等に関してご不明な時は、事務局までお問い合わせ下さい。

・郵便振込:00120-2-763540 加入者名:一般社団法人日本助産学会

通信欄に会員番号と納入年度を明記

・銀行振込:ゆうちょ銀行(9900) 〇一九(ゼロイチキョウ)店(019)(当座) 0763540 一般社団法人日本助産学会(シヤ)ニホジヨウカクカイ 氏名と会員番号を通知

振込忘れや振込の手間を省ける口座引き落としの方法をお勧めしています。郵便振替から口座引

き落としへの変更を随時受け付けていますので、下記問い合わせ先にE-mailかFAXでご連絡ください。

学会誌投稿(共同研究者含)、学術集会演題応募(共同研究者含)、研究助成応募(研究代表者)等は、会員で該年度の会費納入済みが条件になります。応募される場合は、お早めに会費納入をお済ませの上、お申し込み下さい。また、会費納入が遅れますと学会の諸情報の送付が滞りますのでご注意ください。

なお、今年度より年会費の書類(請求書・領収書等)の発行が会員情報管理システム上から、オンラインでの即時発行が可能になりましたので是非ご利用ください。

詳細はこちら:

[http://square.umin.ac.jp/jam/docs/receipt\\_issue](http://square.umin.ac.jp/jam/docs/receipt_issue)

[nce\\_manual.pdf](#)

※但し「口座引落」ご利用の方は、振替結果データ受信後となるため日程の都合上オンライン領収書の発行は、引落日から一週間後以降となりますのでご了承ください。

## 変更届について

住所等の変更に関しては、オンライン会員情報管理システム(詳細は下記)で変更手続きが出来ますのでどうぞご利用下さい。以下のホームページからID(会員番号)とパスワードをご入力の上、ログインいただき、ご希望の手続きを行ってください。

オンライン会員情報管理システム：

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/author/JAM>

ID・パスワードがご不明の場合は事務局宛お問い合わせ下さい。

オンライン会員情報管理システムがご利用にならない場合は、変更届の書式は問いませんが必ず書面(E-mail・FAX・はがき等)に明記して、その都度お早めにお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

変更届は必ずお出しください。学会誌等が届かないような場合は事務局までご一報ください。

## 退会届について

退会届の書式は問いませんが、書面(E-mail・FAX・はがき等)でお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

\*次年度から退会希望の方は、必ず1月末までに退会届け出をお願いします。退会連絡がない限り会員継続となり、年会費をお納めいただくこととなります。特に口座引き落としご利用の方で退会希望される方はご注意ください。会費引き落とし後の退会の会費についてはお返しできません。ただし会費納入年度の学会誌等は送付しますので、十分にご理解いただきたくよろしくお願い申し上げます。

## 学会誌バックナンバー等の販売のお知らせ

日本助産学会誌バックナンバーのお申込み方法は、本学会ホームページから申込書をダウンロードして希望を記入の上事務局宛にE-mail添付送信するか、FAXしてください。在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願います。

※「エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠期・分娩期 2016」は、委託販売(株)日本助産師会出版)となっておりますので、以下のURLからお申し込みください。

<http://www.midwife.co.jp/fs/shuppan/shoseki/I-0002>

一般社団法人日本助産学会事務局

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-24-1-4F  
株式会社ガリレオ 学会業務情報センター内  
TEL:03-5981-9826 FAX:03-5981-9852  
E-mail: [g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp](mailto:g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp)  
ホームページ: <http://square.umin.ac.jp/jam/>

円滑な事業推進のため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。